

「高遠焼(たかとおやき)」が 長野県伝統的工芸品に 指定されました

伊那市高遠町で製造販売されている「高遠焼」が、この度長野県知事より“長野県伝統的工芸品”に指定されました。同指定工芸品は、今回新たに 2 品目が加わり累計 26 品目、国指定 7 品目と合わせると 33 品目となりました。今回の指定を伊那市長に報告するため、高遠焼振興会の方が下記により表敬訪問します。

1 日 時

令和8年9月24日(木) 午前9時30分～

2 会 場

伊那市役所 市長応接室

3 訪問者

高遠焼振興会 代表 浦野 真吾 様

4 指定の概要

令和8年9月16日 長野県伝統的工芸品に知事が指定

「長野県の美しい伝統的工芸品を未来につなぐ条例」の下記の規定に該当するものを、長野県伝統的工芸品産業振興審議会の意見を聞き、長野県知事が指定。長野県内の指定伝統的工芸品は、国・県合わせて 33 品目。

- (1) 主として日常の生活の用に供されるものであること。
- (2) その製造過程の主要部分が手工業的であること。
- (3) 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- (4) 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるものであること。

5 添付資料 ☒ 有 ☐ 無

長野県ホームページ内、プレスリリース(右二次元コード)にも資料があります。



本件に関するお問い合わせ先

令和8年9月16日指定

たかとおやき

高遠焼



【製造地域】

伊那市

概要

高遠焼は、伊那市高遠町で生産されてきた陶器である。高遠藩が城下への上水道整備に必要な土管を製造するため、美濃国（現在の岐阜県）から陶工を招いて窯を築いたことに始まる。

地元の赤土を原料とする陶器で、素朴で力強い造形と温かみのある風合いを特徴とし、灰釉や鉄釉などを用いた実用的な器が多く製作された。

現在もその歴史的価値と技術が継承され、地域文化を象徴する工芸品として親しまれている。

歴史・沿革

文化9年（1812年）、高遠藩主内藤頼以の時代に、城下へ給水するための土管製造を目的として始められた。藩は美濃国多治見の陶工らを招き、窯を築いて土管や陶器を製作した。これが高遠焼の起源である。

その後、民営に移行し、明治時代から昭和初期にかけては複数の窯が開かれ、徳利や甕、茶碗などの日用品を中心に生産が行われた。

しかし、陶磁器産業を取り巻く環境の変化により多くの窯が廃業し、一時は生産が途絶えたが、高遠焼研究保存会の設立とともに町営の「桜窯」が開窯され、陶芸家・唐木米之助氏によって高遠焼が再興された。

以来、地域の歴史と文化を伝える焼き物として、その技術と伝統が今日まで受け継がれている。

（問合せ先） 高遠焼振興会

〒396-0214 長野県伊那市高遠町勝間 142-1

TEL : (0265) 94-2813